

カービュー マーケットウォッチ (2013年4月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー（本社：東京都中央区、代表取締役社長：兵頭 裕）は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

12年度累計では軽乗用車が過去最高を記録

13年 3月順位	13年 2月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	アクア	トヨタ	33,693
2	(2)	→	プリウス	トヨタ	32,527
3	(3)	→	ノート	日産	21,336
4	(4)	→	フィット	ホンダ	20,327
5	(5)	→	セレナ	日産	12,905
6	(7)	↑	ヴィッツ	トヨタ	12,301
7	(6)	↓	クラウン	トヨタ	11,592
8	(10)	↑	カローラ	トヨタ	10,432
9	(8)	↓	フリード	ホンダ	10,403
10	(9)	↓	ステップワゴン	ホンダ	9,046
11	(14)	↑	インプレッサ	スバル	7,368
12	(12)	→	デミオ	マツダ	6,577
13	(11)	↓	スペイド	トヨタ	6,384
14	(-)	↑	CX-5	マツダ	6,158
15	(15)	→	パッソ	トヨタ	5,595
16	(13)	↓	ヴェルファイア	トヨタ	5,290
17	(16)	↓	ヴォクシー	トヨタ	5,198
18	(18)	→	スイフト	スズキ	5,176
19	(21)	↑	エスティマ	トヨタ	4,439
20	(26)	↑	フォレスター	スバル	4,364

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

■軽は好調をキープするも、全体では2ケタのマイナスに 12年度累計では軽乗用車が過去最高を記録

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した3月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽自動車を含め、国内で販売された乗用車総数は57万691台で、前年同月比は89.0%（貨物車、バスを含む新車総販売数は66万7129台、前年同月比88.7%）と、4カ月連続のマイナスとなった。

3ナンバーの普通乗用車は17万5718台、前年同月比84.2%、5ナンバーの小型乗用車は19万3985台、同82.6%と2ケタ減だが、軽乗用車は20万988台、同101.9%と18カ月連続で前年を上回り、依然として好調。12年4月～13年3月の12年度累計では157万1199台、前年同期比123.0%で過去最高となり、12年度の全自動車販売に占める軽自動車比率も2.4ポイント増の37.9%と、過去2番目の高水準に達した。

輸入車と軽乗用車を除く3/5ナンバーの国産乗用車（輸入車扱いの日産マーチ4023台、日産ラティオ1066台、三菱ミラージュ2446台含む）は33万5101台、前年同月比は18.6%減と3カ月連続の2ケタマイナスになった。メーカーブランド合計では、10カ月連続で前年を上回ったスバル以外は前年を下回り、レクサスと三菱を除き2ケタ減と低調。特にHondaは1～3月の累計でも42.8%減と急ブレーキがかかった状態だ。

月間ランキングでは、「トヨタ アクア」が3万3693台で6カ月連続トップで、2～5位の「トヨタ プリウス（α含む）」、「日産 ノート」、「Honda フィット（シャトル含む）」、「日産 セレナ」のベスト5も3カ月連続で変動なし。12年度累計ではアクアが28万2660台で初のトップとなり、28万929台のプリウス（α含む）が2位。このほか、昨年11位の日産ノートが11万5530台で4位、昨年26位の「スバル インプレッサ（G4、スポーツ、XVの合計）」が5万4254台で10位と、ベスト10入りを果たした。

軽自動車は貨物車を含めた全体では24万7060台、前年同月比97.3%と2カ月連続のマイナスで、貨物車は12年度累計で過去最低と落ち込んだ。車名別では「スズキ ワゴンR」が2万8919台、前年同月比6.1%増でトップを奪還。5カ月連続トップを続けていた「Honda N BOX（+含む）」は2位に後退したが、12年度累計では23万6287台で初のトップとなった。

輸入乗用車は海外メーカー製のみでは3万3557台、前年同月比106.4%（日本メーカー製を含む輸入乗用車全体では4万2137台/同105.7%）で11カ月連続で前年を上回った。海外メーカー製ブランド別乗用車ランキングではVW（フォルクスワーゲン）が8405台、前年同月比2.1%増で3カ月連続トップで、2位メルセデス・ベンツ6302台/同11.1%増、3位BMW（ミニを除く）5549台/同11.5%増、4位アウディ3322台/同14.9%増、5位ミニ2044台/同8.4%減と、ベスト5は3カ月連続で変動はなかった。

■ココも気になる！ その1

乗用車部門は13カ月連続プラスと絶好調の斯巴ル！

昨年は年間新車総販売台数で11年を上回り、12年度累計でも521万290台、前年同期比9.6%増と2期連続でプラスになった。ただ日本メーカー製乗用車に限ると、3/5ナンバー乗用車（日産マーチ/ラティオ、三菱ミラージュなど含む）は262万4160台、前年同期比4.5%増にとどまるのに対し、軽乗用車は157万1199台、同23.0%増と圧倒的に売れ、軽の優勢が明確になったのが特徴だ。

そんななか、斯巴ルの3/5ナンバー乗用車が12年度累計で11万6186台、前年同期比39.8%増の大躍進を見せた。スバルは11年2月で軽自動車の自社生産から撤退し、12年度はダイハツからのOEM（相手先ブランド生産）車のみになったため、軽販売が前年同期比44.2%減と落ち込み、12年度総販売台数では16万9212台、同5.1%減だったが、3/5ナンバー乗用車の伸張により、軽を含む乗用車販売は13カ月連続で前年を上回る好調ぶりだ。

特に「インプレッサ」が好調で、12年度は前年同期比80.0%増の5万4254台。昨年10月に発売された「XV」も月平均1700台強と月間販売目標1000台を大きく上回る売れ行きになっている。また昨年11月にモデルチェンジした「フォレスタ」は月間販売目標2000台を5カ月連続で上回り、12年度累計では32.6%増の1万8703台。主力車種の「レガシィ」も6.9%増の2万5372台と堅調だった。

こうした好調の要因は、他メーカーに先駆け、自動ブレーキ機能を備えた先進安全技術アイサイト Ver.2 をプラス10万円程度で標準装備化したこと。当初は10年に一部改良を受けたレガシィのみだったが、現在は「BRZ」と「トレジア」を除き、設定されている。

そして今年3月のニューヨーク・モーターショーで公開されたスバル初のハイブリッド車（HV）、「XV ハイブリッド」も発売間近。これまでの4WDの走りと先進安全装備に低燃費も加わるわけで、斯巴ルの勢いは衰えそうにない。

■ココも気になる！ その2

ニューモデルが好調の輸入車マーケットに注目

海外メーカー製輸入乗用車は 11 カ月連続で前年を上回り、エコカー補助金終了の反動減に悩む日本メーカーを尻目にマーケットシェアを拡大中だ。12 年度累計は 24 万 3733 台、前年同期比 10.2%増と 3 年連続のプラス。貨物車を含めた海外メーカー製シェアは 3 月単月で 8%と 7 カ月連続で記録更新となった。

これは海外メーカー製輸入車の 58.8%がエコカー減税対象車と、日本市場に合わせたラインナップの拡充が功を奏したためで、乗用車の 8 割強が排気量 2 リッター以下、7 割弱が 400 万円以下のモデルだった。

特に好調なのがニューモデル。昨年 10 月に発売された「VW up!」は今年 3 月までに 7957 台が売れ、3 月単月では主力の「ゴルフ」を上回る売れ行きに。また「ザ・ビートル」も好調で、3 月単月では 1662 台（カブリオレ除く）と導入以来過去最高を記録した。

このほか、今年 1 月に発売された「メルセデス・ベンツ A クラス」は発売から約 2 カ月の受注が 5000 台を突破。05 年にデビューした先代の約 2 倍に迫る勢いになっている。2 月発売の「ボルボ V40」も 3 月 25 日時点で受注数が 3100 台を超え、国産車からの乗り換えや 20～30 歳代の購入者が増えるなど、新規顧客の開拓につながっているという。

さらに 3 月単月でアウディが 3322 台、ルノーが 530 台と過去最高の単月記録を達成し、アウディは 1～3 月累計でも 7441 台、前年同期比 16.0%増と過去最高となった。

そして 2 月に 300 万円というお手頃価格で販売が開始されたプジョー初の 7 人乗りミニバン「5008」に続き、VW の新型ゴルフも 4 月から導入記念限定車が 279 万円～で先行予約を開始。まさに勢いを感じさせる輸入車市場だが、今後は円安の影響で販売価格アップも想定されるだけに、狙うなら今だ。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 管理本部法務室（広報担当）（ pr@carview.co.jp ）

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180
